



九月定例会

昭和六十年九月北九州市議会定例会を、九月十三日から十月四日までの二十二日間の会期で開きました。

今議会に市長から提出された議案は、五十九年度決算関係議案二十七件、条例議案四件、六十年年度補正予算議案六件、人事議案二件、その他の議案四件の合計四十三件でした。

本会議において、これらの議案について質疑を行った後、決算関係議案を決算特別委員会に、その他の議案を所管の常任委員会に付託し、慎重に審査しました。

その結果、決算関係議案を十月一日の本会議で認定し、その他の議案を十月四日の本会議において、すべて可決しました。

一方、議員から提出された議案は、九件で、そのうち「職務執行命令訴訟制度に関する意見書」など、八件を可決し、一件を否決しました。



59年度各会計決算を認定

補正予算は66億円を追加

決まった主なもの

市長提出

昭和59年度 北九州市決算状況

区分	一般会計		普通特別会計 (国保など21会計)		企業会計 (上水道など4会計)	
	歳入(A)	歳出(B)	歳入(A)	歳出(B)	歳入(A)	歳出(B)
歳入(A)	3,439億6,736万円	3,383億3,988万円	2,897億7,007万円	2,845億3,970万円	474億1,784万円	521億 357万円
歳出(B)	3,439億6,736万円	3,383億3,988万円	2,897億7,007万円	2,845億3,970万円	474億1,784万円	521億 357万円
形式収支 (A-B=C)	56億2,748万円		52億3,037万円		△46億8,573万円	
繰り越すべき財源(D)	11億3,415万円		430万円		補てん財源等(D)	53億9,819万円
実質収支 (C-D)	44億9,333万円		52億2,607万円		単年度実質収支 (C+D)	7億1,246万円

- ◎六十年年度北九州市補正予算
 - 一般会計 三一億四、六一一万円
 - 普通特別会計 二五億一、九二二万円
 - 企業会計 九億八、一〇〇万円
 - 総額 六六億四、六三二万円
- ◎北九州市浄化槽保守点検業者の登録に関する条例
 - 浄化槽の保守点検業者の登録制度を設けるもの
- ◎北九州市教育施設の設置及び管理に関する条例の一部改正
 - 南小倉公民館新設に伴うもの
- ◎一般国道三三二号道路改良事業に係る仮称第二金辺り道工事委託協定締結
 - 委託金額 九億六、六三三万円
- ◎字の区域の変更
 - 八幡西区本城御開地区及び若松区畠田地区の土地改良事業の施行に伴い、字の区域を変更するもの
- ◎住居表示を実施すべき市街地の区域及び方法
 - 小倉南区、若松区、八幡西区の一部について住居表示を実施するに当たり、実施区域及び方法を定めるもの

議員提出

- ◎職務執行命令訴訟制度に関する意見書
- ◎人事院勧告に関する意見書
- ◎学校事務職員、栄養職員の給与等の義務教育費国庫負担適用除外に反対する意見書

人事紹介

- ◎国庫補助負担率の引き下げ継続に反対する意見書
 - ◎国民健康保険財政に関する意見書
 - ◎市営住宅の同居基準の見直しに関する意見書
 - ◎養護学級・養護学校の教職員定数の早期充足を求める意見書
 - ◎都市交通・新空港・路面電車対策特別委員会の名称変更
- 九月定例会において、次のかたがたが決まりました。(敬称略)
- 北九州市教育委員会委員 栗林 範治 金子慶之助
 - 北九州市人事委員会委員 武若 享
 - 直方市・北九州市岡森用水組合議会議員 久野 壽

北九州市民憲章

緑を豊かに
清潔で美しいまちにします
きまりを守り
安全なまちにします
人を大切にし
ふれあいの輪をひろげます
元気で働き
明るい家庭をつくります
学ぶ楽しさを深め
文化のかおるまちにします

質疑 応答



本会議で十九人の議員が、市長から提出された議案に対する質疑や、市政全般についての質問を行いました。
その中から主なものを取り上げました。

今後の財政運営は

議員 本市の五十九年度一般会計決算は、歳入では一般財源の伸びが低く、歳出では人件費、扶助費、公債費を合わせた義務的経費の割合が年々上昇しています。

このことは、財政構造の硬直化が進みつつあることを示すもので、憂慮すべき状況にあります。

今後の財政運営についてどのように対処されるのですか。

市長 財政見直しについては、本年度に関する限り、検討すべき問題も残っていますが、現在までの市税の課税状況等を見ると特別の情勢の変化がない限り収支の均衡は、おおむね確保できると考えています。

今後の財政運営は、事務事業の見直し、職員数の抑制等による経費の節減を行い、効率的な財源配分を図っていく考えです。

また、市税、地方交付税、匡庫補助金等の財源確保に努めるとともに、市債の借り入れを行う場合は、交付税措置のあるものを優先し、将来の公債費の増加を抑制する考えです。

なお、国に対しても税財政制度の改善を積極的に働きかけていく考えです。

二十四時間体制へ

—北九州港—

議員 北九州港は、これまで船舶の夜間入出港が制限されていましたが、六月末から、コンテナ船の夜間入出港ができるようになりました。さらに、着岸速度計等の安全施設が整備される今年十一月には、コンテナ船の夜間入出港が本格化します。

この措置で、地元経済界や海運関係業者にとどのような効果が期待されますか。

また、今後の外国航路の誘致計画はどのようなようになっていきますか。

市長 二十四時間体制は、関係業界から大変好感をもって迎えられています。

関門海峡には、月に約百六十隻のコンテナ船が航行しており、そのうち半数が夜間航行となつているので、今後は、二十四時間体制の効果が発揮できるものと思えます。

今後の外国航路の誘致については、未開設航路の誘致、船便の安定化、寄港の増便等の要請を関係

船会社に対して行っていくことにしています。

今年度は、すでに臨時寄港しているオーストラリア航路、欧州航路、また中国航路のうち特に大連、天津、広州航路の誘致に力を注いでいきたいと考えています。

堀の水をきれいに

議員 市の中心ともいえる小倉城の堀の水はにごつており、浄化に取り組む必要があると思います。

勝山公園内に八幡東区茶屋町のせせらぎ広場のような施設を建設し、水の浄化を図る考えはありますか。

市長 現在、堀の水はほとんど雨水で、雨の少ない年はきれいでありません。

水の浄化方法としては、紫川の水を浄化しながら堀に流し込む方法、堀の水を循環処理する方法あるいは地下水を流し込む方法等いろいろ考えられますので、現在、検討をしています。できれば、せせらぎ広場のな施設を考えたいと思っています。

今後は、水辺と市民を結びつける試みを計画的に行っていくかなくはならないと考えています。

大手町地区の 再開発は

再開発は

議員 小倉北区の大手町地区は、市の中心部にありながら、土地の高度利用が非常に遅れています。

本来ならば、この地区は、市の中心としての役割を果たさなければならぬ地域だと思えます。

公共的施設の誘致等を行い、再開発する必要があると思えますが、どのように考えていますか。

市長 大手町地区については、五十四年に土地利用促進構想を策定し、五十五年には、高度利用地区の指定を行い、地区内の土地所有者や事業者呼びかけで大手町開発組合を結成しました。

この組合の協力を得ながら、無秩序な開発の防止や地区整備に有効な施設の誘致に努めてきました。

まず、十年がかりで九州厚生年金会館の誘致に成功し、昨年四月に開設を見ることができました。

市の施設としては、五十八年に考古博物館を開設したのに続き、来年度には文書館の建設を計画しています。できるだけ公共的施設の立地を図り、周辺には市街地住宅の建設を促進する考えで、住宅・都市整備公団にも協力をお願いしています。

また、工場等については、建て替え等の際に、周辺地区と調和した景観の整備に配慮していただくよう話し合いを続けています。

コンピューター教育への 取り組みは

議員 文部省は、情報化社会の急速な進展に対応して、義務教育段階でのコンピューターの導入を積極的に奨励しています。

また、来年度からコンピューターを重点配置したモデル校十校を指定し、効果的な利用法を探る方針を打ち出しています。

本市における小、中学校のコンピューター教育への取り組みは、

どのようなようになっていきますか。

教育長 小、中学校段階でコンピューターに慣れ、親しみ、活用することは、これからの情報化社会への対応を考えると、非常に大切なことです。

コンピューターの導入については、本市においても、機器に親しませる目的で、現在、小学校二校で取り組んでいます。

今後は、国の制度を活用し、学校等と十分連携をとり、計画的な導入を考えたいと思っています。

教員の養成については、教育センターにおいて、コンピューターの初級、中級の研修講座を開講しており、すでに六十一人が受講しています。

今後とも、積極的に取り組んでいきたいと思っています。



十分な議論を

—小倉駅前再開発—

議員 小倉駅前周辺の再開発については、基本計画案の発表を契機に、大型店進出をめぐって、賛成、反対の議論が行われています。

再開発ビルの建設及び周辺の整備を行う計画案は、周辺商店街だけではなく、百万市民に与える影響が大きいだけに慎重な対処が求められています。

新たな段階を迎えた再開発事業について、市長はどのように対処されるのですか。

市長 小倉駅前は、本市の玄関口にふさわしい商業地区へと近代化する必要があります。さらに、新しく、北九州の潜在力を発揮させるためにも、再開発は行わなければならないと思っています。

この再開発問題については、今まで相当な時間をかけて、市民のコンセンサスを得るよう努めてきました。具体的には、再開発の素案を提示し、小倉駅前周辺地区再開発連絡協議会で、討議をしていただいています。

地元では、いろいろな意見もあるようですが、その意見を聞いて再開発の今後の方向づけをしていきたいと考えています。いずれにしても、運動が先走りするのではなく、この連絡協議会の中で十分な議論をお願いしたいと思っています。

また、売場面積等については、今後のスケジュールや大店法の運用の中で、福岡通産局あるいは県商工部とも協議をし、さらに連絡

協議会での討議結果との整合性もはかりながら、周辺商店街の活性化を含めて、結論を出していきたいと考えています。

今後の対応策は

—北九州病院グループ—

議員 北九州病院グループは、基準看護料の不正受給で、保険医療機関取り消しなどの処分を受けています。

この病院グループのベッド数と入院患者数は、市内全病院の約十パーセントを占めており、さらに救急告示病院として重要な役割を果たしています。

入院患者とその家族の不安を解消し、地域医療の充実を図るため積極的な対応が求められています。が、どのような対策を講じていますか。

民生局長 患者救済対策については、県が緊急避難的な措置として療養費払いを適用したため入院の継続が可能となりました。

さらに、医療費の支払いも患者の負担にならない方法を検討しているため、患者や家族の不安は一応解消され、病院での混乱は避けられると考えています。

北九州病院グループは、地域医療に大きな影響をもっているため市は県に対し病院再建の積極的な指導と援助を要請してきました。

今後、県は、看護婦の基準を充足している病院については基準看護の再承認を行い、また、保険医療機関指定取り消しを受けた病院については再建状況の推移をみて再指定を考慮すると聞いています。

決算特別委員会の審査から

九月十八日に設置された決算特別委員会は、三つの分科会に分かれ、六日間にわたって審査を行いました。その中から主なものを取り上げました。

第一分科会

産業経済の活性化を

委員 産業経済問題は、企業の動向や国の地域政策とのかわりが深く、本市のみで解決することは難しいと思いますが、本市の産業経済の活性化について、どのように考えていますか。

当局 産業経済の活性化は、対策を講じても直ちに効果があがるというものではありません。しかし、都市のイメージアップ、人材の確保と職業訓練、研究開発機能の充実、第三次産業の振興などを推進するとともに、市に企業誘致のための組織を設けるなど産業活性化の努力をしてみました。

また、大都市には初めてのケースですが、現在、国の制度である地域経済活性化対策の推進地域の指定を受けるため、作業を行っています。

第二分科会

オープンシステムへ

—市立病院—

委員 市立病院は、開業医から患者を受け入れるオープンシステムを実施すると聞いています。

この制度によって、どのようなメリットが生じるのですか。

当局 市立病院は、開業医と密接な連携をとり、地域医療の向上

を図るためオープンシステムを実施する予定です。

メリットとしては、患者が初期診療から高度専門医療まで一貫した治療が受けられること、市立病院と開業医の情報交換による治療効果、開業医の生涯研修、市立病院のベッドの効率的な運営等が考えられます。

また、運営に当たっては、医師会と十分意思の疎通を図り、トラブルのないよう配慮していきたいと考えています。

第三分科会

人と車の共存を

委員 本市では、市内各所にコミュニティ道路をつくるなど、歩行者と車が共存できる道路づくりをすすめています。

しかし、このような線的な道路整備だけではなく、面的な整備が必要と思われますが、どのように考えているのですか。

当局 面的な整備を行うためには、地域全体の駐車禁止や一方通行の導入などの問題があり、住民のコンセンサスを得ることが必要と考えています。

国においては、人と車の共存を図るため、住区総合交通安全モデル事業を五十九年度からスタートさせました。

本市でも、戸畑区の中原西地区約二十ヘクタールについて指定を受け、六十一年度完成をめざして努力しているところです。



第三分科会審査風景